



巻頭言

全国の視覚特別支援学校の現状と附属視覚特別支援学校の果たす役割

—筑波大学 2015 年視覚障害原因等調査からの展望—

筑波大学附属視覚特別支援学校長 筑波大学人間系教授

柿澤 敏文

視覚特別支援学校(以下、盲学校)在籍者の視覚障害原因等の調査は、1910年以降今日まで100年を超えて継続的に実施されています。1970年以降は東京教育大学が、1980年からは筑波大学が主体となって、5年ごとの調査が行われてきました。

最新の2015年の調査では、全国の盲学校全67校から2951人分の回答を得ることができました。前回(2010年)調査の3375人と比較すると424人の減少です。この減少は日本全体の少子化に加えて、2007年度からの特別支援教育制度移行に伴う、特別支援学級(弱視)や通級による指導、通常の学級に在籍する視覚障害のある児童生徒の増加が要因としてあげられます。文部科学省の調査によると、学校教育法施行令第22条の3に該当する視覚障害のある児童生徒のうち、小・中学校で学ぶ人数は294人(2015年度)にのびります。

盲学校在籍者減少の要因には眼科医療の進歩による視覚障害原因疾患の変化もあります。早期発見や治療成績の高まりによって、在籍者における白内障や緑内障、屈折異常、ベーチェット病による視覚障害が減少しています。その一方、視覚障害とともに知的障害や肢体不自由を合わせ有する在籍者の割合が4割にのびり、その割合はますます増加する傾向にあります。

このように、全国の盲学校では、在籍者の減少とそれに伴う教職員数の減少のほか、視覚障害教育の専門性の維持・継承の困難さ、子ども同士の学び合いの機会の減少などの課題が生じています。加えて、在籍者の多様性が広がりを見せており、さらに、盲学校以外の場で学ぶ視覚障害児童生徒への教育的支援等、地域のセンター的機能としての役割が求められています。

こうした中で、筑波大学附属視覚特別支援学校では、140年に亘り築いてきた視覚障害教育を継承しながら、現在の視覚障害児童生徒の教育的ニーズを的確に捉え、それらを満たしていく指導力を発展させていくことを目標にしています。そのために、教職員一人ひとりがより高い専門性を求めて、各種の研修会や講座に参加して研鑽を積み、毎日の教育実践に生かしています。同時に、学会や研究会等で自らの実践と研究成果を発表することで、その専門性を全国に発信しています。また、全国の盲学校・特別支援学級(弱視)・弱視通級指導教室等、日本の視覚障害教育を担っている各機関と現状及び課題を共有し、それらの課題の解決方法をともに思案、実行していくことが本校の大きな役割の一つであると考えます。日本の視覚障害教育の未来を構築、発展させる上で、本校が全国の視覚障害教育機関の先導的存在であるために、大学並びに特別支援教育連携推進グループとの協同・連携も引き続き強めていきたいと思ひます。



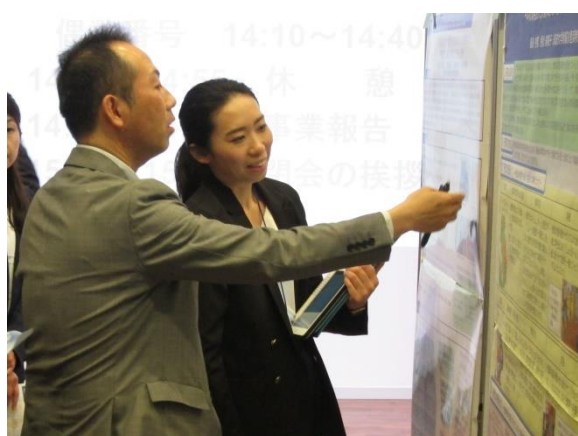
3.27 特別支援教育セミナーを開催しました

3月27日（水）、筑波大学人間系インクルーシブ教育システム開発リサーチユニットと特別支援教育連携推進グループが共催で特別支援教育研究セミナーを開催しました。

第1部は、知的障害教育及びインクルーシブ教育を専門とする、オハイオ州立大学の Matthew Brock 先生をお招きし、講演をいただきました。ビデオフィードバックを用いた研修方法など、エビデンスに基づく教員研修の在り方は、日本の特別支援教育の現職教員研修に関して実践の見地から、示唆に富む話を聞くことができました。



Matthew Brock 先生の講義から最新の知見を学ぶ参加者



熱の入った討論が繰り広げられたポスターセッション

第2部は、附属特別支援5校で取り組んでいる実践や研究についてポスター発表を行い、参加者と交流しました。「他の障害種の実践だが自校でも活かせる内容であった」「直接意見交換ができ、他の学校の理解が深まった」など、好評をいただきました。

実践型「現職教員研修」が始まりました

特別支援教育連携推進グループでは、附属視覚特別支援学校、附属聴覚特別支援学校、附属大塚特別支援学校（知的障害）、附属桐が丘特別支援学校（肢体不自由）、附属久里浜特別支援学校（知的障害を伴う自閉症）の附属特別支援5校をベースにした実習、並びに、筑波大学人間系障害科学域教員等による講義からなる研修を展開しています。本研修は、実践と研究による知を基に優れた指導力を有する教員の養成を目指しています。

本年度は、北海道新篠津高等養護学校より、八木郁朗教諭を研修員としてお迎えしました。4月9日（火）の開講式の後には、研修計画の立案、5校の学校参観、東京キャンパス文京校舎における演習・講義、附属大塚特別支援学校での授業を通じた研修が行われています。

八木教諭は、「これまでの現場での教育実践をより発展させることのできる1年にしていきたい」と抱負を語り、充実した研修生活を東京で送っています。



附属大塚特別支援学校高等部で現場実習の指導にあたる八木教諭

筑波大学発「オリンピック・パラリンピック教育」

今年の大河ドラマでは、東京高等師範学校（現・筑波大学）を舞台に日本のオリンピック参加が描かれました。本学では、以前より人間の尊厳や人類の平和を大切にした「オリンピック・パラリンピック教育」に力を注いでおり、附属学校においても様々な実践が展開されています。SNE-Tでは、各校の取り組みの一端を紹介して参ります。



その1 附属大塚特別支援学校の実践

東京オリンピック・パラリンピックまであと一年になりました。附属大塚でも様々な実践が行われてきており、これまでも高等部では『オリンピック・パラリンピアンに会おう!』、保健・給食部の『給食で世界食べ歩きの旅：オリ・パラ給食』といった実践をこれまでに紹介してきました。各部では「知的障害児教育におけるオリンピック・パラリンピック教育」として何ができるのか？と考え、様々な形でオリンピック・パラリンピックからインスピレーションを受け、普段の授業の中に取り込んでいった実践を紹介したいと思います。

□小学部 造形『東京は夜の七時』

2016年に行われたリオデジャネイロパラリンピックの閉会式で、次の開催都市である東京のPRのために「東京プレゼンテーション」という素晴らしいショウが行われました。その中では東京の様々な風景をバックに、障害のある方々が堂々と行進し、パフォーマンスを披露する姿が大変感動的でした。この感動を何とかして授業に取り込めたいかと考えた実践が、小学部の造形『東京は夜の七時』です。自分たちの住む東京の魅力を「東京のジオラマを作る」ということで表現してみようと試みました。東京のビル群はメラミンスポンジを用いて作りました。一見すると真っ白な建築模型のようですが、蓄光塗料でビルの窓を描き、夜になると（暗くすると）東京の夜景が浮かび上がるジオラマに仕上げました。



□中学部 合同生活『私たちの東京プレゼンテーション』

中学部では学部全体で合同生活という学習に取り組んでいます。合同生活では生徒たちの興味関心に基づいて、様々なことを調べ・体験し・発表します。上述の「東京プレゼンテーション」を受け、自分たちの興味関心のあること（乗り物、生き物、食べ物、芸術）を切り口に、自分たちの住む東京を調べて、体験し、東京の魅力をまとめて発表し合いました。そして「自分たちの住む東京は、こんなに面白くて、こんなに素敵な街なんだよ！オリンピック・パラリンピックに合わせて是非皆さん東京に来てください！」と世界中の人たちにアピールできるように学習の成果をHPに公開しています。（厚谷 秀宏）

http://www.otsuka-s.tsukuba.ac.jp/page2_3.html?eid=00025



紹介 特別支援教育連携推進グループの公開講座

「特別支援教育における子どもの見立てと教材・指導法の基礎」

特別支援学校、特別支援学級、通常の学級等に在籍する障害のある子どもの指導及び支援に携わる方を対象とした講座を8月22日（木）に行います。障害のある子どもの実態把握と指導法の基礎について、附属特別支援5校で活用している教材・指導法を用いた演習（教材作り、指導法体験等）を交えながら、分かりやすくお伝えします。

筑波大学では、特別支援教育連携推進グループと附属特別支援5校の協働による「筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース」を構築・運用しています（日本語版・英語版）。スマートフォンでもご覧になれますので、ぜひ一度のぞいてみてください。



特別支援教育連携推進グループと附属特別支援学校5校の協働による
筑波大学 特別支援教育 教材・指導法データベース



【特別支援教育連携推進グループの催し（予定）】

- 7月22日（月）～8月2日（金） 免許法認定公開講座 [東京キャンパス文京校舎]
- 9月14日（土） 第1回特別支援教育研究セミナー [東京キャンパス文京校舎]
- 3月24日（火） 第2回特別支援教育研究セミナー [東京キャンパス文京校舎]

【附属特別支援5校の研究協議会等（予定）】

- 11月13日（水）～15日（金） 聴覚障害教育担当教員講習会 [附属聴覚：千葉縣市川市]
- 12月6日（金）～7日（土） 自閉症教育実践研究協議会 [附属久里浜：神奈川県横須賀市]
- 2月6日（金）～2月7日（金） 肢体不自由教育実践研究協議会 [附属桐が丘：東京都板橋区]
- 2月14日（金） 知的障害児教育研究協議会 [附属大塚：東京都文京区]
- 2月15日（土） 視覚障害教育研究協議会 [附属視覚：東京都文京区]

※各附属では公開講座等も開催しています。詳しくは筑波大学HPをご参照ください。

<https://www.tsukuba.ac.jp/education/extension/education.html>



特別支援教育連携推進グループ（附属学校社会貢献準備会）より

筑波大学特別支援教育連携推進グループ（附属学校社会貢献準備会）は、附属特別支援5校の専門性を相互に生かした協働と、大学との連携による下記の成果を、国内外へ発信して参ります。

- 「筑波大学附属特別支援5校が協働した専門性に基づく教員研修」
- 「インクルーシブ教育支援システムの実践的な開発研究」
- 「指導法・教材教具等の開発研究を中心にした相談支援システムの開発研究」ほか

附属特別支援5校からの派遣教員を紹介します。

スタッフ
紹介

附属視覚特別支援学校	佐藤 北斗	附属聴覚特別支援学校	鎌田 ルリ子
附属大塚特別支援学校	厚谷 秀宏	附属桐が丘特別支援学校	加藤 隆芳
附属久里浜特別支援学校	稲本 純子		

編集
後記

平成18年に発行を開始したSSERC通信、SNERC通信がSNET（エスネット）となり、2年目の発行です。年4回の発行を目指し、情報発信に努めます。

発行：筑波大学特別支援教育連携推進グループ
（社会貢献準備会）
112-0012 東京都文京区大塚 3-29-1
TEL：03-3942-6923 FAX：03-3942-6938
<http://www.human.tsukuba.ac.jp/snerc/>
mail：snerc@human.tsukuba.ac.jp